

(参考資料1)

「u-Japan構想」の概要

平成16年9月10日
総務省

I. u-Japan構想の背景

■ ICT分野は構造改革の優等生、2005年には世界最先端のICT国家へ

- 「2005年までに世界最先端のIT国家となる」というe-Japan戦略の目標は、IT戦略本部を中心とした政府一体の取組を通じ、インフラ面を中心に達成目前。ICTの活用拡大が当面の課題。今後も目標実現を確実にするため、e-Japan戦略II等を着実に推進。

■ 一方、2006年以降に到来する本格的な少子高齢化社会では、解決すべき課題が山積み

国民生活

- 2007年からの人口減少の歯止め
- 高齢者の住みやすい環境整備
- 食品の安全性に対する信頼回復
- ピッキング等の治安への不安解消
- 地域コミュニティの信頼関係強化

教育・人材育成

- 「数学」「理科」嫌いの増加回避
- 深刻化する青少年犯罪の防止
- 大学・大学院の国際競争力強化

医療福祉

- 遠隔医療等患者中心の医療実現
- 情報公開等による医療過誤対策
- 年金に対する不安解消

就労・労務

- フリーター等若年労働者の失業対策
- 育児支援等女性の就業環境の改善
- 実力主義や雇用流動性の確保

行政サービス

- 引越時等のワンストップサービスの実現
- 電子化・効率化等による財政再建

交通物流

- 都市部の渋滞や満員電車の緩和
- 高齢者や障害者に優しいバリアフリー環境の整備

危機管理

- テロや凶悪犯罪への不安解消
- 地震、台風や大事故等の災害対策
- 情報社会のリスク増大の防止

国際

- 国連等国际機関での発言力の確保
- 戦略的に重要なアジアとの関係強化

環境・エネルギー

- 進展する地球温暖化の歯止め
- ゴミ減量化やリサイクルの強化
- 太陽等自然エネルギーの開発
- 遺伝子操作等バイオ技術の適正利用

経済・産業

- 経済の本格回復・競争力強化
- 製造業等の空洞化の防止
- ITの経営導入による効率化促進
- 日本文化・芸術の海外進出強化

■ 社会基盤として定着しつつあるICTの活用が、課題解決のブレイクスルーとなることに期待大

- 情報家電、電子タグ、ブロードバンド、デジタル放送等、日本の強みであるICT基盤技術が着実に実用化・汎用化
- 老後の不安を解決する介護・福祉支援システム、食の不安を解決する食品トレーサビリティ、治安への不安を解決するホームセキュリティシステム等、先駆的なICTの活用方法の開発が進展 → エビタスネット社会への期待が拡大

■ 2010年の次世代ICT社会の実現へ向けた中長期ビジョン(u-Japan構想)が必要に

- 「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」という将来のエビタスネット社会も手の届くところに。総務省として2010年に実現する新たな社会の姿を明確に打ち出す(u-Japan構想)とともに、必要な政策パッケージ(u-Japan政策)を策定。

II. u-Japanの基本理念①

u-Japanは、次の特質を備えた2010年の次世代ICT社会

u-Japan (ユビキタスネット・ジャパン)

Ubiquitous (ユビキタス)

あらゆる人や物が結びつく

- 「いつでも、どこでも、誰でも」ネットワークに簡単につながる
- ・ICTが日常生活の隅々まで普及し、簡単に利用できる社会へ
- 一人一人に加え、人ーモノ、モノーモノが結ばれる
- ・あらゆる局面で、コミュニケーションがより重要な役割を担う時代に

Universal (ユニバーサル)

人に優しい心と心の触れ合い

- 人に優しい
- ・機器やネットワークを意識せず、誰でも簡単に利用
- ・ICTで、高齢者や障害者等も元気に社会参加
- 心が触れ合う
- ・心の触れ合うコミュニケーションで、世代や地域を越えた一体感を醸成

User-oriented (ユーザ)

利用者の視点が融けこむ

- 利用者に近い
- ・供給側の発想でなく、利用者の利便性をより強く意識した社会へ
- ・ニーズと強く結びついた技術やサービスを開発

Unique (ユニーク)

個性ある活力が湧き上がる

- 個の活力が生み出される
- ・個人でも夢を持ち新たな挑戦が容易な社会へ
- 社会が活性化される
- ・新しい社会システムやビジネス・サービスが次々創出
- ・画一を脱し、創意工夫による地域再生を実現

III. u-Japan政策の全体像（予定）

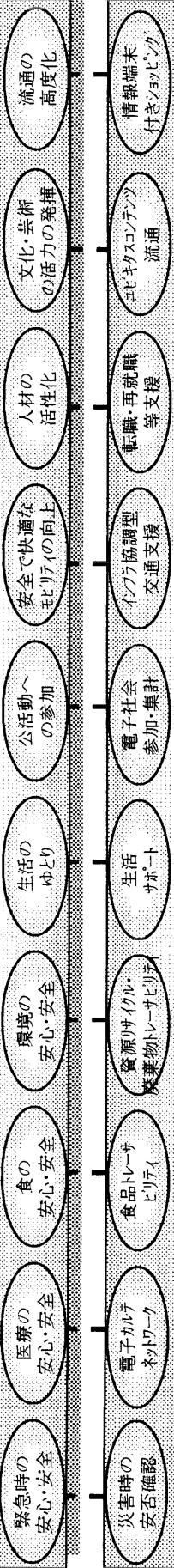
u-Japan
の実現

2010年

u-Japan政策パッケージ

将来課題パッケージ

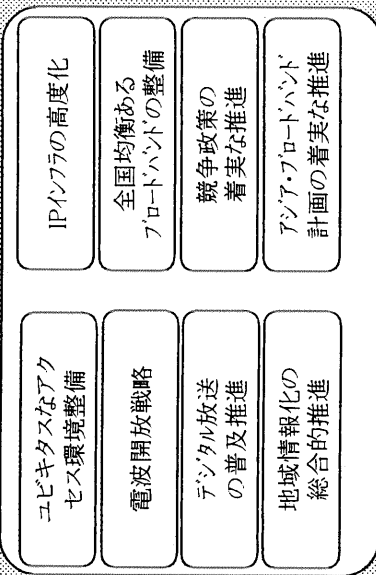
生活者のニーズから、2010年へ向けた将来課題を抽出



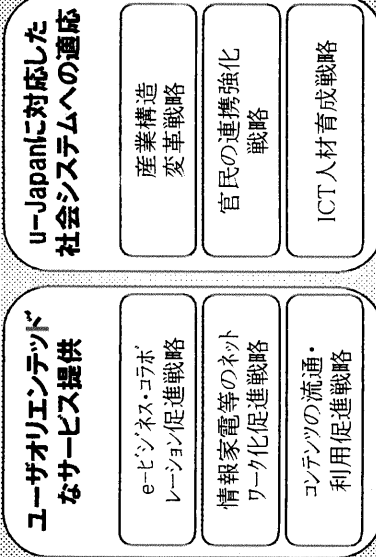
2005年から先行的に取り組むべき代表的ソリューション例を選定



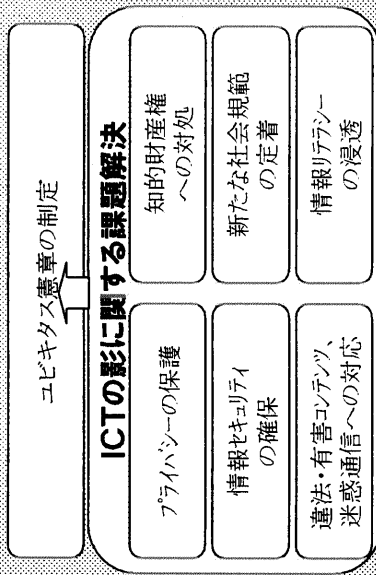
ネットワーク高度化(重点戦略の例)



産業活性化(重点戦略の例)



利用環境整備(優先分野の例)



2010年までの工程表を作成

重要施策パッケージ

国内にとどまらず、国際的な市場やネットワークを視野に入れた政策を推進

必要となるICT分野の研究開発・標準化を戦略的・重点的に推進

IV. u-Japan構想を踏まえた平成17年度の重点施策①

1. いつでもどこでも快適なネット利用ができる社会の実現

1-1) 全国民が快適にネット利用できる環境の実現

- ① あらゆるモノがつながる先進的なネットワークの実現
(ユビキタスネット構築のための研究開発、デジタル情報家電のネットワーク化、トラヒック急増等に対応しうるIPインフラ強化、IPv6の移行推進等)
- ② 全国どこでも利用可能なインフラとアプリケーションの一体的展開
(条件不利地域の情報通信格差の是正、地域情報化の総合的な推進、沖縄国際情報特区構想の推進等)
- ③ いつでも快適なワイヤレス環境の整備
(電波利用料制度の見直し等電波開放戦略の推進、第4世代移動通信システム等に必要な技術の研究開発、電波の人体への影響の調査等)
- ④ どこでもデジタル放送が利用できる環境の整備
(地上デジタル放送の活用、整備の推進、放送波の伝搬状況等の実地調査等)

1-2) 国際的に連携したネット環境の実現

- ① アジアを情報拠点とするブロードバンド環境の整備
(「アジアブロードバンド計画」の推進、アジアブロードバンドプラットフォームの構築推進等)
- ② 世界情報社会サミットへの貢献によるu-Japanの世界への発信
(「ユビキタスネット社会」をテーマとした世界会合の開催等)

2. 新ビジネスや新サービスが次々に生まれる社会の実現

2-1) 創意・工夫に富む新ビジネス・新サービスのスムーズな開発

- ① データのやり取りや機器の利用が自在に可能な環境の整備
(総合的な標準化戦略、特定無線設備の市場調査、次世代地域情報プラットフォームの開発等)
- ② 新たなビジネスシーズを創出する研究開発等の推進
(獨創性・新規性に富む研究開発の積極的推進、ネットワーク高機能化等に必要な研究開発、ICTベンチャー支援の推進等)

2-2) 地域ニーズや利用者ニーズが高いサービスの実現

- ① 住民の参加を得た地域活性化のための提案型の取組の推進
(ITコミュニケーション等)
- ② 電子政府・電子自治体等の公共サービスの高度化
(利用者本位の行政サービスの提供、地方公共団体の業務改革と住民サービスの向上、政府調達手続における契約の電子化の推進等)

IV. u-Japan構想を踏まえた平成17年度の重点施策②

3. 誰もが安心・安全に暮らせる社会の実現

3-1) ICTの安心・安全の確保

- ① 安心・安全なネットワークを確保するための基盤の整備
(情報セキュリティに関する普及・啓発、セキュリティ技術基盤の形成等)
- ② 個人情報などが守られる安心・安全なICT利用の実現
(個人情報保護、消費者行政の推進等)

3-2) ICTによる安心・安全の確保

- ① 医療や食など身近な生活空間における安心・安全の確保
(電子タグの高度利用技術やセンサーネットワーク技術に関する研究開発、ネットワークを利用した救急診療等の推進等)
- ② 地域社会における安心・安全の確立
(ICTを活用した地域安心安全情報ネットワークの構築、消防防犯情報通信ネットワークの高度化、防災情報の共有化システムの開発等)
- ③ 安心・安全の一層の充実のためのICT環境の整備
(準天頂衛星システムの研究開発、次世代GISの実用化に向けた情報通信技術の研究開発等)

4. 個の活力が湧き上がる社会の実現

4-1) 誰もが自由にネット利用できる環境の整備

- ① 誰もが自由に社会活動できる基盤の整備
(高齢者、障害者のICT活用への支援、国家公務員のテレワークの実施等)
- ② 誰もが簡単にストレスなく使える機器やサービスの実現
(ネットワーク・ヒューマン・インタフェースの総合的な研究開発、使いやすいユーザーインターフェースの実現、エージェンツ技術の開発・実証等)
- ③ 高度技能やリテラシーの習得が進む人材基盤の整備
(高度情報通信人材育成プログラムの開発、ユビキタスラーニングの基盤構築、ICT人材研修・セキュリティ人材研修等への補助等)

4-2) 知識や情報の創造や共有の促進

- ① 価値あるコンテンツを自由に制作・利用できる環境の整備
(コンテンツ制作・流通支援技術の開発、Web情報のアーカイブ化等)